

平成31年 町長施政方針②

平成31年第1回定例会の施政方針演説の内容を一部抜粋して掲載します。



前号に続いて「平成31年町長施政方針」を掲載します。

―林業振興

林業については、各自自治体へ「森林環境譲与税」の配分が始まります。この譲与税を財源とし、町が行う森林整備や林業担い手の育成確保、森林資源を活かした循環型社会の実現に向け、関係機関と連携し取り組んでまいります。

山林地籍調査については、森林所有者の高齢化や相続による世代交代等により、所有者や境界が分からない山林が増えている状況を踏まえ、引き続き事業の進捗に努めてまいります。

―結婚・子育て支援

結婚・婚活支援は、本町における人口減少・少子化対策の重要課題であります。

縁結びネットワーク協議会の支援団体と連携して、結婚を望む方に対し、イベントやセミナーなどの出合いの場づくりに、引き続き取り組みます。

また、結婚・子育てコンシェルジュと地域サポーターによるマッチング支援、しまね縁結びサポーターセンターが実施している「はぴこ会」との連携コンピュータマッチングシステム「しまこ」の周知など、多様な支援方法を活用し、結婚のサポートに取り組んでまいります。

子育て支援については、国の施策として進められている「幼児教育の無償化」への対応を遅れることなく進めてまいります。

また、制度改正の内容を検証し、利用者への影響も踏まえながら、町独自の軽減施策を継続する考えです。加えて、幼児園に防犯カメラを設置し、乳幼児が安心して保育を受けることができる環境を整備します。

―地域づくり・定住対策

「小さな拠点づくり」については、現在、三成・亀嵩・鳥上・八川の4地区において、取り組みが始まっております。先進地視察やワークショップを繰り返しながら、地域課題の洗い出しや集落点検が行われているほか、新たに阿井地区でも組織づくりやアンケート調査が行われ、各地に広がりを見せています。

魅力ある地域づくりを推進できるように「小さな拠点づくり」への取り組みを支援し、自助・互助・共助・公助のバランスのとれた町づくりを目指してまいります。

定住対策については、町外への転出の歯止めと、Uイーターンの促進策として、奥出雲住まいサポート事業を、子育て世代の住宅取得や改修に対する経費にまで拡充します。また、まち・ひと・しごとセンター

「奥サポ」を中心に、本町に住んでいただくための支援を強化してまいります。

―地域医療と介護・福祉の充実

将来にわたって地域医療を維持していくためには、医師の確保が喫緊の課題です。「地域枠推薦入学制度」などを利用し、本町の医療を担っていただく人材を確保するとともに、町内の児童生徒はじめ町民の皆様に対しても、地域医療の大切さを啓発してまいります。

町立奥出雲病院については、国による医療費抑制政策や医師の働き方改革などの対応が求められ、地域医療を取り巻く環境が厳しさを増しています。このような状況下で、誰もが健康で安心して暮らすことができるよう、地域医療の中核病院として、安定した経営に取り組みでまいります。

地域包括ケアシステムについては、誰もが安心して自分らしい暮らしができるよう、小さな拠点づくりと連携した取り組みを始めます。

さらに、県、医師会、介護サービ事業者とともに、「地域包括ケアシステム推進協議会」を設置し、「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」について、課題、方策等の調査・検討などを行うための体制整備を図ってまいります。

―行政改革

奥出雲町行政改革審議会から、「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進」と「第三セクター等の経営健全化」の2項目について答申をいただきました。

公共施設については、「利用計画のない施設については、積極的に情報提供し、公募による譲渡、売却を検討すること」や「役場庁舎の統合と活用について早急に検討を進めること」などの提言がありました。

また、第三セクターについては、株式会社奥出雲振興を中心にご審議いただき、観光・交流人口を維持・確保する観点から、施設の存続に向けて、「経営体制の再構築」「中長期的な経営計画の策定」「従業員の施設運営への参画」などの答申をいただきました。

町内経済への波及効果や雇用の場を確保する観点からも当面は、第三セクターによる運営を認めつつも、早期に役員を民間登用する必要や、民間企業による施設運営を検討する必要があることなどの意見が添えられております。

町といたしましては、審議会からの答申に基づき、積極的な対応に努めてまいります。

高齢者のサポートについては、新たに町内の新聞配達業者の皆様との協力を得て、見守り体制を強化したところです。

少子・高齢化が進行する中、「地域共生社会」の実現に向け、一人暮らしや高齢者世帯などへの生活支援、見守り活動を民生児童委員や社会福祉協議会などの関係機関と連携し、取り組んでまいります。

―教育の充実

教育環境の整備については、三成小学校移転改築、横田小学校プールの移転整備、仁多中学校武道場の改修、小中学校普通教室等へのエアコン設置を進め、より安心安全で快適な教育環境に向けて、着実に取り組んでまいります。

小学校の再編については、教育委員会・総合教育会議において審議した具体的方針を各地区で説明します。子どもたちや地域への配慮のもと、保護者や地域の皆様のご意見を伺いながら、慎重に進めてまいります。

横田高校の魅力化については、今春の生徒募集において、推薦入試で定員を大きく上回り県内最高倍率となるなど、高校の魅力が伝わりつつあります。

県外町外からの入学希望者も

増え、生活拠点となる新たな寮が必要になったため、平成31年度に限り、島根デザイン専門学校とのセミナーハウスを借り受け、町営の第2寮として、受け入れを開始する予定です。

また、横田高校創立100周年を迎えることから、11月に記念事業が実施されます。引き続き、魅力ある学校づくりを進めてまいります。

教育の魅力化につきましては、平成30年度において町内の教育機関関係者、事業所関係者、保護者等からなる「奥出雲町教育魅力化協議会」を立ち上げ、現在、草案を取りまとめております。

今後は、各幼稚園、小・中学校、高校の活動を通し、その具現化に向けての取り組みを進めるとともに、家庭、地域、事業所への周知を図り、連携・協力しながら、奥出雲町らしいふるさと教育、キャリア教育、学力の育成に取り組んでまいります。

―スポーツ振興について

インドホッケーチームの事前キャンプ誘致については、インド国のホストタウンとして、キャンプ誘致のみならず、様々な交流活動を進めてまいります。

なお、昨年12月に本町で実施したインドの高校生とのホッケー交流事業は、NHKのテレビ放送で、全国・全世界に向けて放映され、奥出雲町をPRする絶好の機会となりました。

スポーツ合宿推進事業では、アーチェリーやトライアスロン競技の合宿誘致につながりました。

平成31年度には、剣道の県中学校総体やホッケーの国体中国プロテック予選などが本町において開催されることとなり、スポーツを活かした地域振興につなげてまいります。

―文化振興について

たたら文化に起因する本町には、世界に誇る価値ある文化財が多数存在します。昨年10月には、糸原氏庭園が国の名勝として登録されるなど、今後も本町の文化的・歴史的資源の付加価値の創造、有効活用に取り組んでまいります。

また、奥出雲町文化協会をはじめ、各地区公民館やサークル活動への支援、本町ならではの「たたら体験学習」や学校と地域が連携・協働したふるさと教育を進めるとともに、昨年8月に任用したインドからの交流員とともに、異文化交流も図ってまいります。